



12
881
6



海のそととて死なむとありあり 河 發方 修驗 細 年花

てハ現世乃祈禱もとの本とせし後世のほとめとて本

世もよと人さるもの也 采 祈加持也

うとくま物ほらると 采 封とあるへ 細 符と

るるへ 河内本をさるるへとちんやま

とくもさるとふつうちもとふら海やと日さうらうあり

ぬもさうたらつてけいんわとて終今とさう死はよてあじ

に僧とさうやとあうとていんぬらうら 細 とうせいのさる也

世悟は飲つるもとて死つるもやま也 細 とうせいのさる也

吸心也ねらふ家とて死にぬると云也 細 とうせいのさる也

まうこのけくらわ乃志とに 河 盤折通巖巔 白氏文集

賊陝或九折は清か納之松常子とて近き物く海の

はらわつとと云也 細 ともと志を寺とみる誤也松常子

くは海のはらわつと云也

あまのふ葉なれとらわらうとてわらうと 細 傳部坊の

まうひの可然と後より美のさるるなるとてやと

しるるも又あやとていんぬらう也 采 花物結を無傳部

わらう 傳部坊のさる也

いんぬらうとてけいんわとていんぬらうとていんぬらうに

のふらとていんぬらうとていんぬらうとていんぬらうに 細 屋廊也

るるへ 傳部坊 采 南流 細 三年 禁是乃

うとまあもさる也

いんぬらうとていんぬらうとていんぬらうとていんぬらうと

采 源氏の詞也

あまらうやうとていんぬらうとていんぬらうとていんぬらうと 細 源氏の意

てしるるに終る程みあまうりに柳宗るる清はらふと僧部
いひとてそをれと怪落つる詞也

まじりあまのわらふもあまうりてまてはうきそてふつと
あむらとるもはるもあまうりにみあ 昇 僧部乃きるる人

— 細 女童也尼公乃きるる人 —

しとに女こそあまうれ僧部乃とてまやうみそとて終り
とつとる人あまうれとてまらうらつてのまことありあじ
もた家 細 津信の人乃き也

女こそうらまひ人あまうれとてまらうらつてのまこそわらひ
終ひひ 果 二人りるる人 —

白きらあまうりにつあまうれとてまらうらつてのまこそ
まを終てあまうらつてあまうれとてまらうらつてのまこそ
まをまらうらつてあまうれとてまらうらつてのまこそ

細 癩病 果 癩の

新うられわらふと終らぬ也は信乃人もやわらふむるも
思はぬうらつて也

う清の少りきりちりてまのうらつてのまこそ終らぬとて
とらてうらつてまらふとてまらうらつてのまこそ

秋山終日兼之晚望寐 紀綱言長公雄心 細 原乃うらつて也

癩とてうらつてまらふとてまらうらつてのまこそ
まらうらつてまらふとてまらうらつてのまこそ

あまうらつてまらふとてまらうらつてのまこそ

う清の少りきりちりてまのうらつてのまこそ終らぬとて

細 原の詞也

これといとあまうらつて 細 清乃人乃の詞也

人乃國をうらつて海山のありまらふとてまらうらつてのまこそ

人の心 細 他國也作勞物終よ人の國あまうらつて

るやまはりの事りやまは同也何異國なるまはわは是
 くの法をのみやうとありてを後せん 細 けふまは後と云は
 一事もくはくせんひのしやう也 果 源は後乃らやま
始 始くはくせん也

篇より出るふりのききとてかるとやゆるをあり又而乃
 みのねしとらさうくくつそ乃うたといはゆるをありて
 よ後山はくせんくくつそ也 は 大なる種也高き山
 又神様せる山也と花るふり乃らきハ物してハ而を
 定むかへは別とを清らるのききと云へるもや富高
 ると終してはなむ 細 花る清らるる可也
 よ後山はくせんくくつそ也 細 けは山はくせんくくつそ也
果 瘧疾と云はくせんくくつそ也
 ちりたはくせんくくつそ也

花 花より出るふりやまは同也何異國なるまはわは是
 くの法をのみやうとありてを後せん 細 けふまは後と云は
 一事もくはくせんひのしやう也 果 源は後乃らやま
始 始くはくせん也

るふ乃らと云はくせんくくつそ也 河 寛ひらき 地 地空虚空寛 白 白氏
 文集 阿 阿曲隈 細 細
 みの字一稱ハ唱てあそり ア 或云はくせんくくつそ也 細 細
 ゆちひらきと云はくせん也

ころたのあそりやまは同也何異國なるまはわは是
 くの法をのみやうとありてを後せん 細 けふまは後と云は
 一事もくはくせんひのしやう也 果 源は後乃らやま
始 始くはくせん也

ねのりみちらうひるる清きまればはむすめふらまほけんこし
しよんく推^{チイリヤク}するしや也

くれつらおれとたつしき路をひありぬるたこそつはめれ

細^ホと白きもりのほおるらち紛る瘧をぬしき路をぬ

もやうるしき路をぬしあつらふらぬはぬのきもりく

しほはまほよたりしつらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

とぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

まらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

らぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

細^ホ海にそ路をぬしあつらふらぬはぬのきもりく

とぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

葉^エ被^ミは息^{ミヤスナコ}にらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きららぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ
ぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

ちとぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

立^ツ出^デ給^{キム}國^{クニ}にあらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

細^ホはぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

きらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬらぬ

くれろくを思ふ程くあん 河夏

早乃活むい海とこの坊ありをまうをゆるんをれいと母
多死あやうや程く 早 早下乃河ある人

河樹下集

そのくまろついと井此處にあまれり早の道とくやあかん
天台大師活忘日意惠僧正被誨也子僧贖一心也早乃
ある道同も也

いぬる十日のりけいもさうわくあまにさういゆるとさ
さあつとそくさうゆるんのをへつすくにあつたに
入つれと 細 源乃河也 早 源の僧部へはあつた也

くさやあまのさうあつたさあつたさあつた人さ
ちりうらとわいとわくうあひけいさあつたさあつた
ゆる 細 効強あつたさあつたさあつたさあつたさあつた
おしとの威徳とつとさあつたさあつたさあつたさあつた

用とさあつたさあつたさあつたさあつたさあつた

えとさあつたさあつたさあつたさあつたさあつた
とさあつたさあつたさあつたさあつたさあつた

とれとさあつたさあつたさあつたさあつたさあつた
早 源氏乃使とさあつたさあつたさあつたさあつた

思われ程く人あつたさあつたさあつたさあつた
うわあつた 早 源乃活心也あつたさあつたさあつた

也他源の也也

かくあつたさあつたさあつたさあつたさあつた 早 僧部

梅は二ヶ年と刀とさあつた

ねるや 案乃つちりたるれと 案僧於の詞也

とくすし 死あるるれを清くんせさきん也

細 清しき世の世部いささくは水の清く清きるるとも也

案アラスカカリヤセニハ 非納涼清き紗とつら

せらに穿し給へし 案はくまわてPされん也

あのみまにぬくにあとくしうひさうをばらとつてま

うおひせや 細 されは僧於乃尼公は我清きとてくし

をいひさうを給へし立寄給故よとんわらうまも人き

せととや移りしあうしあある也 案 案は尼公り原

乃ととこの世にのちるも給え原成と尼公り原

せんやちとくPあきつる也 案 案は乃る也

あくれありはるるあもも 案 案は乃る也

うらうらとわらぬ 何 不審 和ゆらう也

まにやと心をとにうらりてわあし本堂ととうるる

後なり 案 源氏被僧於乃坊のなぬと思ふ心也

月とるに清きれとやと水ようらとととらうらるると

とふらととらうらわらひていとさうまにさうらひけう

れ やらひ乃はもとらとととらうらう

案 案は物みうらうらととて 案 案は乃る可也

也ととくしととととととと

まやうらとと白ひみらうらにまら清きとひねととと

まは 案 案は乃るまるととととととととととととと

清きとつて

うらの人いし心けうひとととらり 案 案は乃る人の人

僧部世乃はゆるに清き物結 細 案 案は乃るきうをPらう也

時僧於の詞後也

後の世乃ちとちとにささくせ給 細 且とく僧ハ僧ニ對し
カテラヌムレヤウ
 てハ必至常乃は理と演説する礼義と云へし

我法はどの目とむをさううあらざるに心と云めてい
 ありと云らとこれとむのひさやむるはあなり 茶 あらと云ふ

こゝ無路をららにはらんと云め給をりけるあひこり給ふ
 やと云也

まして後の世乃ちささくしる人さ張むははくせと云らな
 るはとむとせささくしる 茶 細 原のまして我

力のうんとせ給ふ也 細 のそ紀時一時の
 望の面給ふららてささくしる

也 茶 雲と乃る也 細 且とく僧ハ僧ニ對し
 うに押し給ふされあうららにささくしる

これきとあんとあはれをささくしる 細 原の初也 茶

とらるうし 細 僧部也
 可とあされと 細 僧部也

うららと 細 僧部也
 うららと 細 僧部也

うららと 細 僧部也
 うららと 細 僧部也

うららと 細 僧部也
 うららと 細 僧部也

うららと 細 僧部也
 うららと 細 僧部也

うららと 細 僧部也
 うららと 細 僧部也

うららと 細 僧部也
 うららと 細 僧部也

少くは河津也 乃原河津上と云ふ也とわたりての記也

と記ししはうらたにきわめてよめやくにまゆのありと云

何そこの修へん 采無らぬと云はあつてまゝにその

ふみと尋せしと云ふや又ふめやくらぬやうなり也

むとめそとひらりと作りし 采 僧部也

うをそこの十よ福んあやありゆめしん 采 安あつて僧部

乃初むれ八十余と云ふに可^レ積常^ニきとせしめあり

也す淡原乃におも也

故大納之内はまゝしんちと云ふと云ふしゆと云ふはいのこ

とくともものゆりて 采 林中人と云はくみと云ふ也

はとにゆふしと云ふと云ふこの尾末と云ふと云ふはゆりし

乃事也

考初乃宮らん思ひしゆりしはきけつりある也

細 じゆみも式^ニア^ラふも也はまの文也 采 高直女流乃内舎也

もとのふらちあんとと云ふと云ふしてやと云ふと云ふは

てあまられ物と云ひと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

おそろしと云ふ也 乃 采 中乃の本臺也 采 林と云ふ福ん

路と云ふ也やむしと云ふは故よりしゆりしゆりしゆりし

物と云ひはやまひはく物也 采 法師乃河と云ふと云ふは

細 僧部のおとしと云ふあり 乃 採 依^レ依^レ新^レ多^ク

采にらと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

采 尼公乃孫也と推^スしゆ也 采 少くは世と云ふと云ふ大納の

むとめれよあつてるひと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

采 乃初はと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふと云ふ

のりうけぬ 葉はうらら堂とてうたふ也

又ききしらとてさやまのうたに曲はさしけりてはたは
ゆやうに吹くうたに 葉 善喜乃山中のうた也

海の下とてさしけりてとてさしけりてはたは 細 海に海のあら

サンチライチヤノアメヒユキヤウバクチクノイツニ

そひら也山中一葉西樹と百葉と泉とてさしけりて

何 海は海乃中とてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

細ニビザク 引色乃は縁臨経なるん

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

事おほくしてさしけりてとてさしけりてとてさしけりて

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

またさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

とてさしけりてとてさしけりてとてさしけりてはたは

納まはははは

吾何言と云ふてかろくし 細原乃初也 采はつて
とらるる也 采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて

采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて

采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて

采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて

采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて

采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて
采はつてかろくし 細原乃初也 采はつて

けりし源の事と文交よるにけりし人ともさしひよあはせ
けりしもの事也 細 今比業よも母よもやくとされけり
てんとすしなるれは同類なる人とも也 細 源と業と母
君也とせぬ事也

うけおつとけりしことと 細 と讀らる人ともさしひよ
りてあへくもやあらん事也

おほいしき事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
し 細 けりし人ともさしひよ 細 けりし人ともさしひよ

りし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
かたよとせらるる事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

あり 細 けりし人ともさしひよ 細 けりし人ともさしひよ
き事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ 細 けりし人ともさしひよ

けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ
けりし事なりし事と 細 けりし人ともさしひよ

おれよ心もつらむおれよ心もつらむと四つにわかれしあつしきおれよ

細 源の河也

宮人よゆきそてやこころ山嶺をよらむとて死なむとてとらむを
群 雅幽玄のともこころを。細 同 葉中に海に流るる
山乃花乃葉もくくると終りんと也心をぬめぬとほやむ
やと源乃清根折るるめもくくると終りんととほめもる後
群乃ららる也

やの終りもてさうとてはうひらめとあやむるに

うらむを乃花もらるるをらるるに山さくくはめとさうとね
河 天台云優曇花死三子年一現之則金輪王出世と 案云く
トニ ケハ リン ワラニエツセ ヨニカラス レイネイ ナトミ シエ
曇花ハ輪王出世ノ瑞也故号ニ靈瑞花人亦八百餘時
節金輪王遠四列其時海水半減とるにうらむとては花

出現とる也是とて源氏物語とらむにうらむとあつ

河乃河あつとてくひさくをらるる也あつとほ花乃久を

時一現の也 細 傳乃乃也源氏と優曇花ははらる也

よこたは源氏と乃花の優曇花のくくめつとくく

み山嶺もめきさうけくぬと也は花源のとも優曇鉢花と

は源乃あひくくつたことにとととつと源三子年に一を海中

に咲花とらう笑ぬむの必輪王出世と終りとらう

やとくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

もて源ははらしてせしと源の卑下の心あつと併出せにらう

て善終つうせとく一源は終はは善なりと源の善れんと

うもて善とく 細 源乃善なりと卑下しての終也併

のうらむとらうとての終也 案 優曇花乃ららむとらう

印の 細 加持の御也

法うりし夢路りて 聖に原乃は益とありし也

奥山の松乃と信そとて中にあきてまゝとぬ花乃かどとる也

聖の心 聖の心 細 山橋戸と釋とあを

てのうは也 采原乃乃とていめてよめり

せうらるるんなる 聖 聖の御のさ極也

ひつと信そとにむとなる 河 獨結

見給る信都乃うとてさうりて 此のうとてさうりて

あつとこのうとてさうりて 河 本朝神仙傳

上宮太子者用明天皇之孫也 母后妃嘗長有一金人曰

欲觀名胎以弘佛法 延生之後自少小時聖德被天下神

異遍海内遺小野妹子於唐朝渡先身持經取他經來

太子閉戸入之一旦貢美物而出吾進遺魂神一而實渡也

中日之間渡万里滄溟後彼山僧日其日令人乘空來取此

經聖衣因遠雲方香冥異抄 欽明天皇法皇聖德太子

六年冬十月自百濟國經論律所豫所以丘尼以下と始ら

後乃宝物とありて 但太子金對子念珠事傳以下と

不見と或人云は法隆寺太子乃法宝物の中へ念珠あり

連とにありて中へ金對子念珠一連あり又彼寺の編起

あといんしとありて 百濟國より金對子念珠あり

ゆりハ元真寺資財帳第九云喜多加子金剛子ハ百

濟國不敬也と但聖德太子乃教珠の縁ハ見ゆ

ゆりハ元真寺資財帳第九云喜多加子金剛子ハ百

濟國不敬也と但聖德太子乃教珠の縁ハ見ゆ

ゆりハ元真寺資財帳第九云喜多加子金剛子ハ百

濟國不敬也と但聖德太子乃教珠の縁ハ見ゆ

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. It features various characters and symbols, including some that appear to be decorative or specific to the script.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is dense and covers most of the page, with some lines starting with larger characters that might be initials or section markers.

あはれしむわのへ乃極らしぬと心とめあはれはとらうれこ
源の奇ははよととらうれにきとてよめり尼公のぬ奇
二向はた乃うるもくつら也一劫イッパツ細花のうのこどらり
紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
ろめきと心と云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
海めきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
ゆとらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
後教の法をうとわねしらうまねらうわくして二三日あ
りてそれし心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
あしとらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
さしとらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
しとらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
はらの心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう

ふはあしぬと心と云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
美ホ花と云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
まらやうと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
わさとうらほと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
後教と云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
らうらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
とをわらうと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
さしとらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
細 惟光と云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
ゆとらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
にうらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
おとせしと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう
つらうめきと云ふ也紫よは源氏の心とをき給ハ菊咲たのう乃やうにう

河 詞多ふか 古便 卷他
コトオホクキスカタニ
フエクニウ
巻他
古便
卷他

ろるれい主命殿とせめありき終 細 王命令殿也是より
 ろにぬ意よ源氏之密^{ヒツク}ありは物籍乃作^イ終に
 物之去也はく意と漢よりなりは物籍乃作
 終にぬ意よ源氏之密ありは物籍乃作終に

何事一計為与 百葉

ろるれい主命殿とせめありき終 細 王命令殿也是より
 ろにぬ意よ源氏之密ありは物籍乃作終に
 物之去也はく意と漢よりなりは物籍乃作
 終にぬ意よ源氏之密ありは物籍乃作終に

ろるれい主命殿とせめありき終 細 王命令殿也是より
 ろにぬ意よ源氏之密ありは物籍乃作終に
 物之去也はく意と漢よりなりは物籍乃作
 終にぬ意よ源氏之密ありは物籍乃作終に

ふいに信守ら傍のちうみをわつしよまてぬいふちあらたに
や 采女カクニは懐妊の事也

人志まはるる事ととも存せしむる事ありてあつたのこ
わつしよる 細 懐妊の事也 采女と采女とて思

ひびく

あつた信守らにいとわつたもあつた事なり 六月乃信守ら
三月は成妊といふ事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

かつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

とてあつた事なり信守らとて三月とみか月
とてあつた事なり信守らとて三月とみか月

終にやうやくとていふもあらずはくしやうと終へ

^五たの意のほ懐雅の事とす終源氏のほ也

今ぬと思ふよらとむはあつらうらうらとらうらとらうらと

きとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

うらうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

とらうらとらうらと

七月はあつてそあつ終あつらうらとらうらとらうらと

^五懐雅四月月あつらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

とらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

^五懐雅のほ也

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

あつらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

意のほつらうらとらうらとらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

とらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

^五とらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

^五とらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

らうらとらうらとらうらとらうらとらうらとらうらと

いとほそれとわねと 茶 係成もすらん終てのはん也

杖乃クきまして心のいもなるくのこ 茶 有葉乃ほるのあ也

茶 づいとくもあつて終にあぬと杖乃クきあやうりあ也

有葉のほあつといんとうあ終時ふと也

わりみりもく人のほあつりに心とくもて 細 有葉のほる也

あれうららゆらととまらひひはうととらう終らり

る 細 その極うらとる終也有葉のほ上乃ほとと也

茶 紫葉ととまらひひはうととのほ心也

いんひうらととありしうわりうてられてあつと

茶 山あつて尼君のあ也 細 生るらんあつとととぬ

わらもとと後終う時のいもるとととぬ也

もつとんおらとやせんやうとんあやうと 細 係切魚

終るに自然らうと見ゆとらはてりてとまておねと也

茶 葉のいもととやとあやうた也

いんひうらとととらん終らうとととあつとととらり

ひ奇紫乃名のえ始也は葉の名字先をこつとにらん

ととととと葉のうもとととととととととととととと

ゆらととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

ととととととととととととととととととととととと

某 信那の文也

せうんろくまうりたるれとくねしひきつるもあつとんねん
細 世間存理 某 余志定離乃義也信那よお南初也

世中たうれとと長にうらめきまに思つしんもつうまに
わさるれはとて思やとてん 細 世間の事 某 某志の事

と尼志の志つしと思ひ信那乃はん也
こゝろとほよとれをうしるもつうしうぬとちひつて

何さうとてつひつる 舞 某 世の中とて思つるもつう
多成と女はとてつう又思申うとて思つるもつう

よらとけつとて思つるとは思はと号けつとて思つる
たう如何一様は思つるもつうとて思つるもつう

にこれ思つるもつうとて思つるもつう
か納まゆりあつて思つるもつうとて思つるもつう

可然との心也

つらもつとて思つるもつうとて思つるもつう
あつとつとて思つるもつうとて思つるもつう
とて思つるもつうとて思つるもつう

系乃及よと 細 世の事 某 世の事
世乃及よと 細 世の事 某 世の事

か納まゆりあつとて思つるもつうとて思つるもつう
の信那乃及よと 細 世の事 某 世の事

あひらうは神とて思つるもつうとて思つるもつう
言にわつとて思つるもつうとて思つるもつう

信 信那乃及よと 細 世の事 某 世の事
信 信那乃及よと 細 世の事 某 世の事

ほそくちあつぬくともむすひんてれてとふともくあり
ひて 細か細まるともこれいふも也 某父宮人け某宮人を入

と某さんとは遠可赤中惟えよか納言う務る也

ねさうあわうららに地ぬいともむすひらともむす
と 某さうともありいらぬとの細也

まらりぬ 某惟えう原氏へあがり某さる也

某さ大原よわらりあつた 細某上乃侍さる也

さの女君ともささいめんし終るに地むつしうむす
終く 某某上の原も常にやうむす終るぬら

例とむつり

あつるともくさてむつらあつぬともさばくともさ
くさつともあつぬともささひむすり 細むつらあつぬ
くさばくともさそれともぬらともささくともささあつぬ

まき原 内信 常陸守 河つら 和歌の想えられともさ
細とて 秘曲ある也 常陸守内信乃秘る白首のとも

也 常調ありともささくともささくともささくとも
ありとも 和歌の信攪所攪とて 神樂信もさる用

さりありあつぬともささくともささくともささくとも
り又常と毎楽曲終りかくと常攪ともささくとも

一稱海人の時と来つたのさくともさ 細は信古来不審也

海中うと秘折るともささくともささくともささくとも
はさつともさ物治りともささくともささくともささくとも

常度ありともささくともささくともささくともささくとも
と也と某今某上の信乃ともささくともささくともささくとも

ともささくともささくともささくともささくともささくとも
るとともさ終るも橋乃ともささくともささくともささくとも

唐文のほむすの也細と未稿よまゝなりは河おも南へ
ひまゝのまゝのりも紫人はあつと怪タシカニ不気とつう或説
紫乃とていふとくたも云流まゝ

らうりれれとめしうきくまらまらひ路り 細 惟えあり
まゝの也 紫 紫乃とつうとる路也

らうくちもやめれとらわしうも何とてうのまゝはとら
らし 河 河日中紀 細 あと又宮入りの路入りの
ま ヤヤ 紫 モウサカ 此とる也

らうとむいんそんもまらくくもくもいんた人いふ
くそりもまもわひひま 細 又宮へあつとつうと
そのまはとつうくもとらとていんそんとあ
ま 紫 紫乃とつうあつとるもの也 紫 紫乃はん也
あつとつういんまのき 紫 紫乃の河也 惟 惟えとつう作付也

車のはうらうらとていんま 細 惟えとつうは
との路もまらつとてまらぬ 細 惟えとつうは
ひまらとつうま 紫 紫乃は思案のん也

人のほとまにわらひ 紫 紫乃のわらひとるかとのん
ら 紫 紫乃のわらひとるかとのん
よのまらとつうとつう 紫 紫乃のわらひとるかとのん

あつとよりあつとつうとつうとつうとつうとつう
又らつとつうとつうとつうとつうとつうとつう
とつうとつうとつうとつうとつうとつうとつう
ハ板らねと也

らうらうらとつうとつうとつうとつうとつうとつう
とつうとつうとつうとつうとつうとつうとつう

うらやまの糸 細うらやまの糸

かたきり糸の糸 細かたきり糸の糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

必用糸 細必用糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

我々の糸 細我々の糸

うらやまの糸

惟え糸 細惟え糸

かたきり糸 細かたきり糸

かたきり糸

かたきり糸 細かたきり糸

てんてん糸 細てんてん糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

かたきり糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

わらわの糸 細わらわの糸

かたきり糸 細かたきり糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

ひらひら糸 細ひらひら糸

かたきり糸 細かたきり糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

かたきり糸 細かたきり糸

うらやまの糸 細うらやまの糸

かたきり糸 細かたきり糸

いとおしうらうらとまきしあやしはあつたものなる
みとまきしあや 細 かんらうしれとてか納その傍あつた也
まきしあやうらうらうらとまきしあやしはあつたものなる

果 源の洞らうり 船まら カトロキ 路くあや也

くね報書とまきしあやとてあつたものなる 細 入路くし

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

果 源も宮とたれしんも也

たまか納そらとまきしあやしはあつたものなる

大納をなまのし一様とまきしあやしはあつたものなる

果 前よ作えと大納とまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

果 父宮ハ宮まらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

あやしあやうらうらとまきしあやしはあつたものなる

らわれとありされいとわづきみくはくまうきとんを
ほそいととられてしつるに たい 采東の臺也
せめてわづきとあうしつるをみせそ 采堂君と源

氏のまおてわづき也

とく流るる人きうういあつとんや 采源氏のたすけ也

とくか後あしれを流りしつるわづきとんを

ふんやうしつるるんう記るるととんを

河端嚴女天后大慈心柔軟 采嚴經 花 源英的男

女婚姻賦云至柔者女と云文粹 細花の男女婚

姻賦源英明作と撰也後日相公の作也 采雨松乃

品定と思ひとの終り

清うらひしつるを流るるんを

るうしつるわづきとんを

はうしつるんを流るるんを

采うそあつとんを流るるんを

りしつるんを

やうしつるわづきとんを

れとんと流るるんを

とんを流るるんを

采母の振と云ふ也一花より流るるんを

み也采母の服の中を流るるんを

とれとんと流るるんを

みと采母服三月と云ふんを

結海にあつとんを流るるんを

とんと流るるんを

也とのれ也但これ采母の服を流るるんを

濃字

Handwritten text, likely a title or header, written vertically.

Main body of handwritten text, consisting of several lines of cursive script.





